【高等学校用】

令和５年度学校評価 結果

学校名	佐賀県立牛津高等学校

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

1　前年度 評価結果の概要	**・専門的な知識・技術を確実に定着させる取組は成果が出ており、就職内定率も県内の中でも高水準となっている。基礎学力については、後期に行った指導の結果を受けてのPDCAの再検討を行う必要がある。 ・地域との協働活動については、教育課程内外問わず積極的に参加する生徒がおり、地域貢献だけでなく生徒の資質能力の向上にも役立っているので、さらに参加する生徒のすそ野をさらに広げたい。 ・学校魅力強化委員会（学校運営協議会）により、様々な立場からの有意義な意見を得ることができた。次年度以降はさらに委員内での議論等を活発になるよう、会議の進行の工夫に取り組みたい。 ・学校の魅力発信については、様々な手法で行ったが、生徒募集という形での目に見える成果はそれほど得られなかった。今後も魅力発信の手法等を研究・実践し続ける必要がある。**
2　学校教育目標	**変化の激しい時代にあっても常に志を強く持ち、知性と慈愛をもって人々の暮らしに安心と豊かさを提供し、よりよい未来を創造できる人材を育成する。 また、住民との協働により、地域をデザインし地域に活力をもたらす存在であり続けること。**
3　本年度の重点目標	**・生徒の主体性伸長の支援 ・生徒の進路希望実現につながる教育の質の向上**

4　重点取組内容・成果指標　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

	重点取組			具体的取組	最終評価		主な担当者
	評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	
1	●学力の向上	○主体的な学びを重視した授業の推進 ○基礎学力と専門的な知識や技術の向上 ○学習習慣の定着	○アンケートで「学校で行われている授業で自分は主体的に取り組んでいる」と答えた生徒を80%以上にする。 ○学習トレーニングの主体的な取り組み状況を70%以上にする。 ○学力診断テストの学習力レベルが前年度より向上する生徒を70%以上にする。	・生徒が主体的に取り組めるような授業の工夫や改善に努める。 ・基礎力診断テストのデータを分析した情報を職員間で共有し、課題の指導を行う。 ・家庭学習や校外学習のプロセスや成果をポートフォリオに記録させる。	A	・89.2%の生徒が授業を主体的に取り組んでおり、基礎力診断テストによる授業理解度も約9割の生徒に意欲的な姿勢がみられることがわかった。 ・校内外の学習については、ポートフォリオの記録されたことをアウトプットさせ、今後は生徒自身の行動変容のきっかけになるような働きかけが必要である。	進路指導主任 各教科・学科主任
2	●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○授業や学校行事、講演会等を通して、倫理観や正義感、自他の人権や生命を尊重する心を育み、豊かな心を身に付けさせる。	・授業や学校行事等の学校生活において、生徒が自ら判断する場を設定し、自他の人権や生命を尊重する心を育む。 ・性に関する講演会、エイズ予防講演会、薬物乱用防止講話等の開催を通して、自分や他人を大切にする心を育成する。	A	・予定していた4回の講演を実施することができた。 ・アンケートでは、「豊かな心を育成する教育が行われている」に対して肯定的な回答をする生徒の割合が95%を超えており、講演会などの取組は、豊かな心を身に付けさせることについて、効果を出していると考えられる。	教務主任 生徒支援主任 保健指導主任
3		●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの早期発見・早期対応に積極的に取り組んでいると回答する生徒・保護者の割合が80%以上。 ○いじめの一定期間内での解消100%。	・学校生活アンケートを年間2回実施し、組織的にいじめの早期発見・早期対応を行う。 ・問題が発生した場合は、迅速に対策会議を開催し、組織的な対応を行う。	B	・予定どおり「学校生活アンケート」を2回実施しした。アンケート等によるいじめについては覚知後、関係職員による迅速且つ正確な情報共有、組織的な対応により重大事態にはなっていない。 ・今年度覚知及び認知したいじめのうち、1件は解消、残りの4件は経過観察中である。	教頭 学年主任
4	●健康・体つくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「健康に良い食事をしている」と考える生徒を50%にする。	・朝食の大切さについて、保健だよりで発信する。 ・食に関するアンケート調査を行う。 ・家庭科の授業と連携し、望ましい食習慣について考える機会を持たせる。	A	・保健だよりをとおして、生徒に朝食の大切さを伝えた。 ・アンケートの結果、全体の80%を超える生徒が、朝食をきちんと食べるなど、食習慣や食の自己管理が概ねできていると考えられる。 ・家庭科の授業の中で、望ましい食習慣について理解させることができている。	保健指導主任
5	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・学校閉庁日の設定、年次休暇の積極的取得を推奨し、教職員の心身の健康増進に繋げていく。 ・学校行事の精選に努めるとともに、校内の諸会議を勤務時間内に設定・実施する。 ・業務の適正化を図り、効果的な教育活動の実践に繋げていく。	B	・1月末現在において、本校職員の時間外在校等時間の月平均は30時間超、45時間超は9名であり、昨年度と比較し若干増加した。 ・夏季休業中に5日間の学校閉庁日の実施、やむを得ない場合を除き、勤務時間内に諸会議を実施することができた。 ・「働き方改革」の取組について、一層の工夫改善に取り組む必要がある。	管理職

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

	重点取組			具体的取組	最終評価		主な担当者
	評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	
6	★唯一無二の誇り高き学校づくり	◎★志を高め、他人のために働くことができる生徒の育成	★専門的知識・技術の獲得意欲が向上した生徒80% 「仕事」に対する理解が高まった生徒70% 「働くことへの意欲」が高まった生徒70%、職業人としての資質の向上70% 「地域を思い、貢献したいという気持ち」が向上した生徒70%	・職場体験を取り入れた「総合的な探究の時間」では、「仕事」「働くこと」についての理解、意欲を向上させる。 ・「地域活性化」をテーマとした学校設定科目「起業家入門Ⅰ・Ⅱ」「課題研究」では、地域に貢献したい気持ちや起業家マインドを育成する。	A	・約95%の生徒が、専門的な知識・技能が概ね身についていると実感し、また、現場実習を通して、専門性を生かした職業に就くときに必要な力を具体的に理解できている生徒が実習をすることで、18.2%から39.2%%と増加した。 ・キャリア教育を通して、「働くことの意義」を考えることができたと98.7%、また、現場実習において100%の生徒が「働くことは大切である」と回答している。また、90.2%が「働くことは楽しいことである」と回答している。 ・将来地域のために役立ちたいと答えた生徒は67.6%から70%と僅かであるが増加している。	家庭科主任 主幹教諭
7		★選ばれる学校に向けた県内外への情報発信	★県外からの入学者数を2人以上にする。 ★志願者数（入学者数）の増加 令和5年度選抜よりも入学者数10%増	・学校説明会等を通して魅力を伝えるとともに、体験入学・学校見学会を実施し、模擬授業や実際の作品に触れる機会を設定する。 ・ホームページ等により県内外への発信を行うとともに、通学可能な県外中学校へ出向いての説明を行う。	A	・県内中学生に対しては、説明会に積極的に参加し、県外中学校にも訪問して広報活動を行った。また、インスタグラム開設やホームページでの活動内容掲載数増加、小城市役所のSNSでも学校の情報を発信してもらうなど活動を拡大した。 ・県外からの合格者数は2名 ・令和5年度入学者数より志願者数は20%増加	教務主任 主幹教諭
8		★魅力化評価システムを活用した学校改善	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合85%以上、教職員の割合90%以上 ★アンケートの『社会性にかかわる学習活動』に関する項目で肯定的に答えた生徒の割合50%	・様々な活動を通して、自己肯定感を持たせるような工夫をする。 ・地域との連携事業において、地域の資源や課題・課題解決について考える活動を入れたり、関わる生徒の数を増やしてすそのを広げる。	B	・「自分の学校を中学生に勧めることができる」と答えた生徒の割合は7月時点より14%増の81.1%であった。「自分の学校を中学生にお勧めすることができる」と答えた教職員の割合は91.2%であった。 ・アンケートで社会性に関わる学習活動で肯定的に答えた生徒の割合は、7月と比べて10%ほど上昇し、47.1%であった。特に、「地域の魅力や資源について考える」という項目については、20%増加した。	主幹教諭

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育　★･･･唯一無二の誇り高き学校づくり

5　総合評価・ 次年度への展望	・アンケート結果によると、生徒の社会性の高まりが確実にみられた。地域と連携した活動への取組を強化させたことが結果に結びついたと考える。次年度はこれらの活動をより深化させ、生徒の主体性伸長へとつなげたい。 ・地域と連携した活動は、生徒の地域への関心を確実に高めている。引き続き、参加する生徒の裾野を広げるとともに、地域の課題発見・解決について思考を深め地域活性化にさらに意欲的に取り組めるよう、行政機関等と連携しながら具体的活動を考えたい。 ・学校魅力強化委員会においては、本校の教育活動等について熱心に議論がなされた。次年度は、魅力強化のための具体的なプロジェクトチームを設定し運営していくスタイルも考えていきたい。